

計画の目的

北海道では、太平洋側、日本海側の津波浸水想定を公表しています。

八雲町は、太平洋と日本海の日本で唯一の2つの海を持つまちであり、自然豊かな地域ですが、沿岸域では、地震津波による広域かつ甚大な被害が想定されています。そのため、「命を守ること」を重点課題として、町の基本的な対応方針を示す本計画を策定しました。

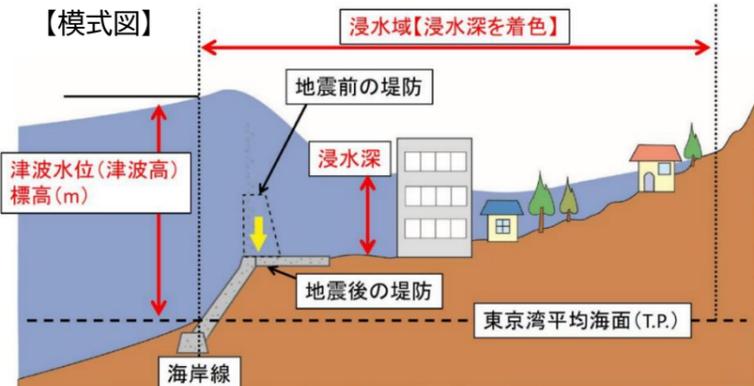
東日本大震災では、日頃から津波に対する避難訓練を行い、大きな揺れが発生したら即時に避難するという体制が整っていた地域では、多くの命が救われています。それぞれのご家庭で、さらには住民のみなさまで、「地震が発生したら、どこへ、どこを逃げるか」、「避難に必要なものはなにか」などを確認しておきましょう。

八雲町内で想定されている津波

八雲町内の浸水想定面積と津波水位、第一波到達最短時間は下表のとおりです。

気象庁から津波注意報が発令される基準となる 20 cm以上の津波浸水深が想定される行政区を「避難対象地域」としました。

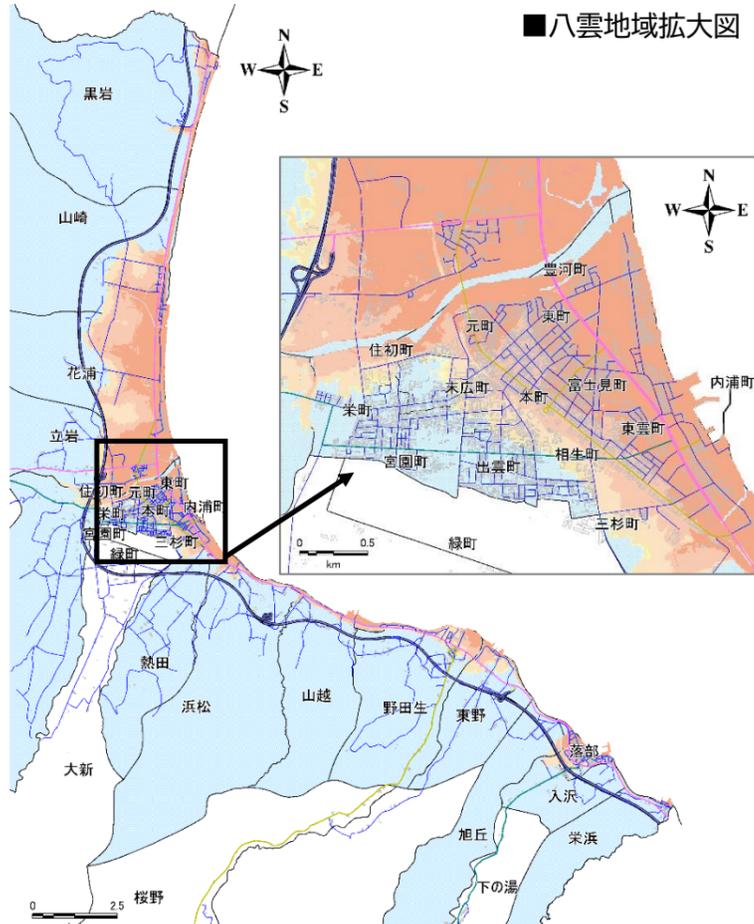
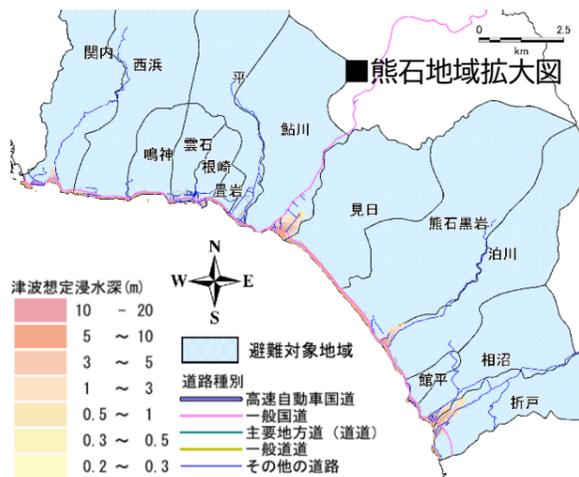
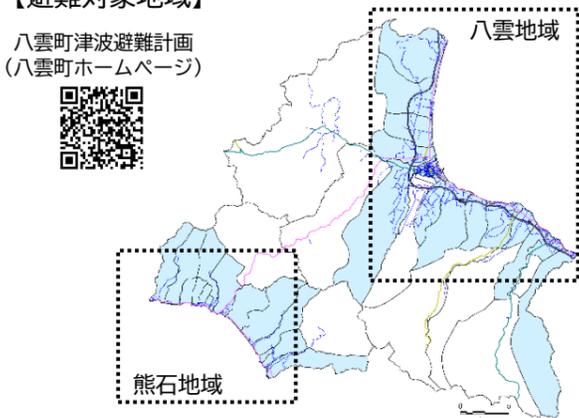
	熊石	八雲
最大浸水想定面積	260ha	2,350ha
最高津波水位	11.0m	10.4m
第一波到達最短時間	4分	68分



出典：北海道太平洋沿岸における津波浸水想定 解説書(令和3年7月)

【避難対象地域】

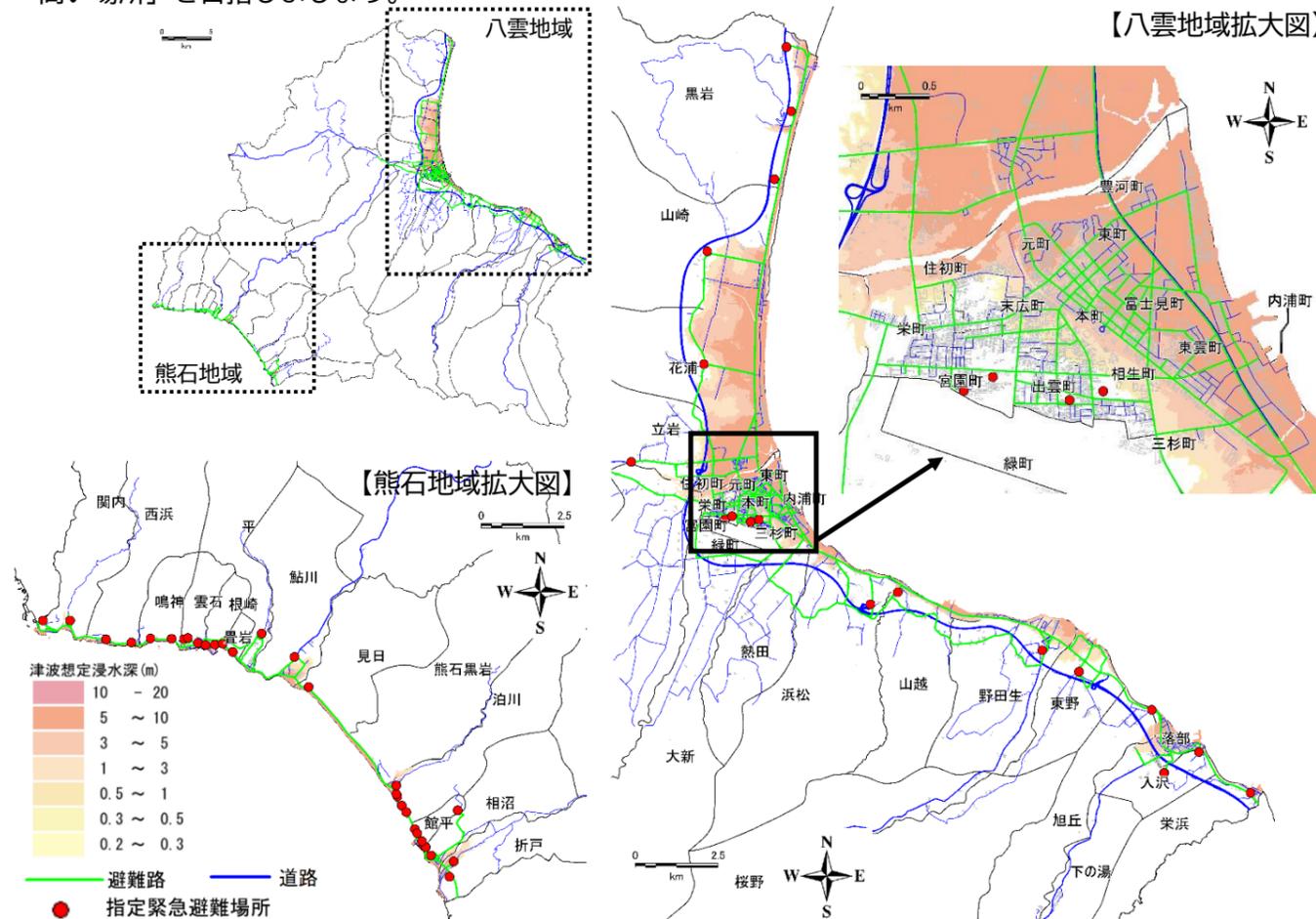
八雲町津波避難計画
(八雲町ホームページ)



避難路と指定緊急避難場所

生活道路とされる幅員 5.5m 未満の道路よりも幅員の広い道路を、町が指定する避難路としました^注。住民のみなさまは、避難路のほかのその他の道路を含めて、指定緊急避難場所まで最も短時間で、かつ安全に到達できる経路を利用して、できるだけ早く避難してください。津波が河川を遡上するおそれがあるため、川を渡るルートはできるだけ避けてください。

町が指定する指定緊急避難場所などを目標に避難してください。ここなら安心と思わず「より早く」「より高い場所」を目指しましょう。



注. 5.5mの避難路から指定緊急避難場所までのアクセス道路が幅員 5.5m よりも狭い場合も避難路として設定しています。熊石地区では、国道から移転改築中の八雲町熊石国民健康保険病院までの道路も避難路として設定しています。

八雲町の避難困難地域

避難を開始するまでにかかる時間を八雲地域では5分、熊石地域では2分として、1.0m/秒で歩いて避難した場合、津波到達時間までに、避難先や津波浸水想定区域外に避難できない地域(以下、避難困難地域^注という。)を設定しました。

試算によると、八雲町地域で約 6,100 人、熊石地域で約 900 人が避難困難地域に居住しています。

注：試算では、東日本大震災の事例等から、避難が可能な限界の距離を設定しました。そのため、避難先からの半径 333m 以上の範囲は、避難困難地域となっています。

【避難困難地域】

避難困難地域



